

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
33	地域とともに原子力発電を環境学的に考える
メンバー	[学 生] 荒川 稀竜 / 井手 愛香 / 伊藤 巧真 / 岩澤 匠瑛 / 河守田 桃華 / 斉藤 泰生 / 高橋 諒 / 中村 翔 [担当教員] 竹中 康之
<p>【背景】 函館市民として青森県下北郡にある大間原子力発電所をないがしろにはいけない。函館市には大学が複数存在し、道外から多くの若者が大学進学のために函館市に移住している。そこで函館市に住む多くの若者に、建設中である大間原発の存在やメリット、デメリットについて知ってもらう必要があると考えた。</p> <p>【目的】 まず、活動を通して我々地域プロジェクトのメンバーが大間原発の現状とメリット、デメリットを理解する事が重要であると考えた。その後、我々が学んだ事を多くの人に知ってもらうための活動を試みた。</p> <p>【概要】 主に三つの活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>原発についての学習会</u> 原発についての知識を得るために教室にみんなで集まり、大間原発だけでなく世界中にある原発や原発の基本知識などを共有し合った。 ・<u>大間原発への訪問</u> 実際に大間原発に訪問し、そこで働いている人から話を聞き、施設の見学をさせてもらった。 ・<u>函館市に住む人への共有</u> 私達が学んだ事を資料にまとめそれを拡散し、資料の最後にアンケートに答えていただけるようお願いしアンケートに答えてもらった。 	
<p>【プロセスと成果】 前期は、原発に関する予備知識が少ないと思い、最低限の原発に関する知識をメンバー内で共有することが必要であると考え、主に学習会を行った。学習会是对面または非対面の両方で行い、各自がネットワークを駆使して学習した内容を共有し合った。学習を通じて原子力発電に関する善悪や国際的な情勢について理解を深めることができた。その成果としてエネルギー自給率の観点から私たちは原子力発電を「必要」と考えるに至った。しかし反省点として賛否両方の立場から考えることが重要であると考え、後期では反対の立場の人々の主張について調査をした。</p> <p>後期の活動では、大間原発を建設している電源開発株式会社の方々に協力していただき、実際に大間を訪れ大間原子力建設所を見学した。見学前に大間原発の現状を理解するために3回ほど大間原発についての学習会を行い、大間に行く前の週には電源開発の方々が本大学にて特別学習会を開いてくださった。実際に見学して、現地で働く原子力を推進する方々の声を聞き、シミュレーションシステムなどの安全対策について学ぶことができた。</p> <p>実際に大間に訪れた後は、見学で聞いた事や今まで私達が調べたこと、学んだことを多くの人に知ってもらうために、わかりやすく資料にまとめ拡散する準備をした。資料には大間原発の概要やメリット・デメリットを理解してもらうための工夫をした。実際に北海道大学水産学部・はこだて未来大学・北海道教育大学函館校の学生を中心に拡散してアンケートに答えてもらった。アンケートには大間原発について資料を見る前から知っていたかどうか、原子力発電に対するイメージ、函館市に住む大学生として大間原発の建設に関して賛成か反対かなどの質問を作った。30人ほどの学生からアンケートの回答が得られた。アンケートの集計を行い、具体的には大間原発の存在をあまり知らなかった人が67%、大間原発の建設中止を求める裁判について少しでも知っていた人は0%、函館市に住む大学生の立場として大間原発の建設に「どちらかといえば賛成」「どちらでもない」「どちらかといえば反対」がそれぞれ同程度で、「賛成」や「反対」と言い切れる人は居なかった等の結果が得られた。大間原発のメリット・デメリットや大間原発の現状を知ってもらうことが出来た。</p>	

【総括と反省・今後の課題】

学習を通じて、原子力発電の仕組みや燃料や、廃棄物問題のみならず、エネルギー問題全般についても理解を深めることができた。

実際に大間原発へ行き、安全性に力を入れていることを知った。また、学習会では知ることの出来なかった大間原発に携わる人たちの声を聞いたり、大間原発の大きさや函館との距離について体感したりすることができた。

電力会社で原子力を推進する方々の主張や、原子力に反対する人々の主張を踏まえ、将来のエネルギー問題を考えるにあたって、短絡的に善悪を判断するのではなく、継続的な学習が必要だと考えた。

本活動の成果を資料の提示やアンケートを通じて地域の人々に還元することができた。

しかし反省点としてアンケートの回答者数が想定より少なかったため、今後の課題として、「函館市内に住む人たちに原発のことを知ってもらおう」という活動目的を遂行するためにはもっと興味をもってもらい、アンケートに積極的に答えていただけるような閲覧しやすい媒体の検討が必要だと考えられる。



【大間での討論会】



【原子炉の見学】

【地域からの評価】

Googleフォームのアンケート機能を使い、函館市に住む若者を中心に知識を共有することが出来た。

アンケートには、「大学のために函館に来ているが、函館に影響を与える原子力発電所が建設中であることを知らなかった」や「身近なものであり私達若い世代も考える必要があることが分かった」、「建設については函館市民に十分な説明が必要なのではないか」という意見があった。函館に住む若者は大間原発のことについての知識が少ないことが分かった。

【謝辞】

本地域プロジェクトの活動を進めるにあたり、協力していただいた電源開発株式会社の方々や、アンケートに答えていただいた函館市の大学生の方々に、心より感謝申し上げます。

【年間スケジュール】

- 前期
 - ・5月～8月
原発についての学習会
- 後期
 - ・10月
後期の活動計画と役割分担
大間原発についての学習会
 - ・11月
大間原発への訪問
大間原発のまとめ
 - ・12月
学んだ事を拡散するための資料作り
 - ・1月
アンケートの集計
総括